

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第29週 (7/15-7/21) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		29週	28週	27週	26週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	17	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千葉市					千葉県	
		注意報	7/15-7/21	7/8-7/14	7/1-7/7	6/24-6/30	7/8-7/14	
			29週	28週	27週	26週	28週	
小児科	RSウイルス感染症		5 0.29	7 0.39	7 0.39	0 0.00	74 0.55	
	咽頭結膜熱		5 0.29	6 0.33	5 0.28	11 0.61	65 0.49	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		10 0.59	31 1.72	38 2.11	37 2.06	372 2.78	
	感染性胃腸炎		43 2.53	94 5.22	95 5.28	106 5.89	545 4.07	
	水痘		1 0.06	3 0.17	9 0.50	4 0.22	57 0.43	
	手足口病	↓◎	269 15.82	382 21.22	245 13.61	115 6.39	2591 19.34	
	伝染性紅斑		12 0.71	20 1.11	16 0.89	23 1.28	125 0.93	
	突発性発しん		9 0.53	9 0.50	20 1.11	16 0.89	58 0.43	
	ヘルパンギーナ		34 2.00	57 3.17	33 1.83	22 1.22	391 2.92	
	流行性耳下腺炎		0 0.00	3 0.17	5 0.28	6 0.33	15 0.11	
	インフル	インフルエンザ*（高病原性鳥インフルエンザを除く）		1 0.04	1 0.04	1 0.04	0 0.00	4 0.02
	眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
流行性角結膜炎		○	4 0.80	3 0.60	2 0.40	7 1.40	20 0.57	
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22	
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22	

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査	後天性免疫不全症候群	男性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	70歳代	病原体の分離・同定
腸管出血性 大腸菌感染症	女性	20歳代	病原体の検出及び ペロ毒素の確認	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出等
				百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
アメーバ赤痢	男性	30歳代	病原体の検出	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌 感染症	男性	80歳代	細菌の分離・同定及び 薬剤耐性の確認	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出

・第29週は、結核2件(107)、腸管出血性大腸菌感染症1件(6)、アメーバ赤痢1件(5)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(7)、後天性免疫不全症候群1件(4)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(10)、梅毒1件(21)、百日咳4件(85)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第29週のコメント

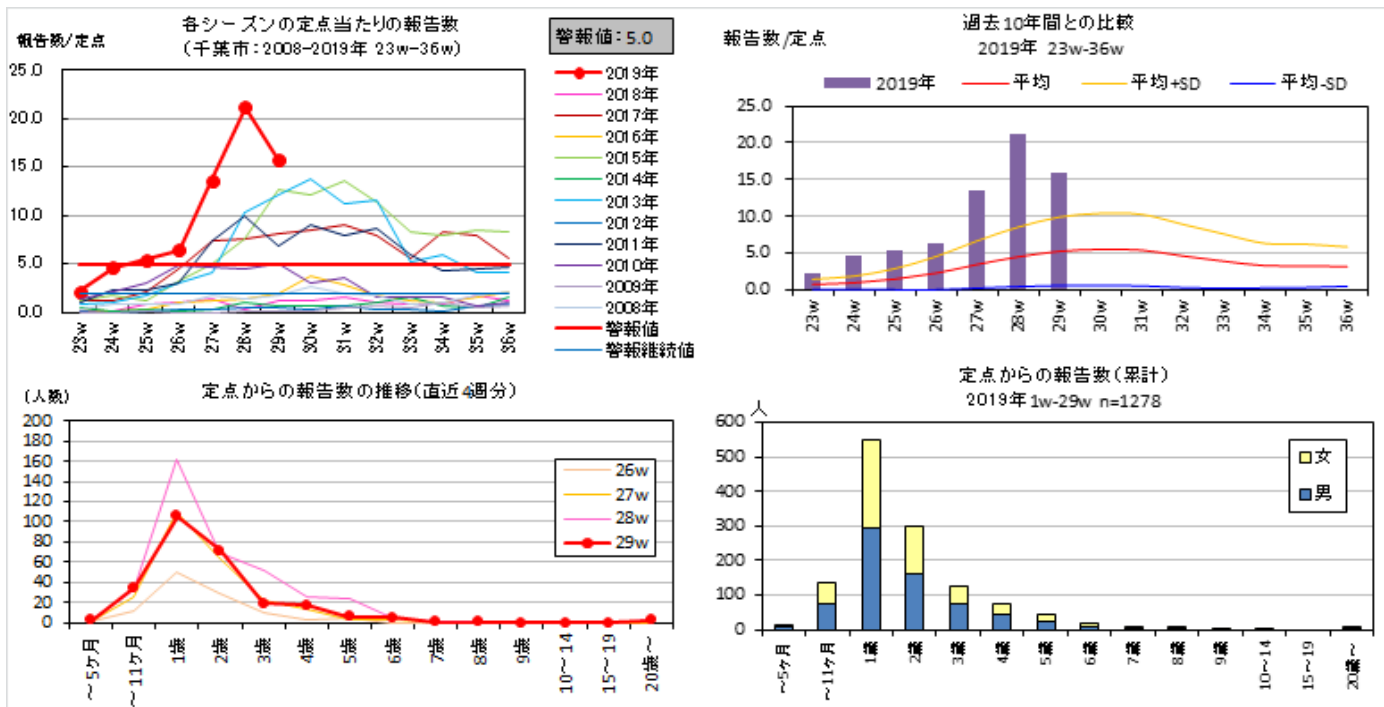
＜手足口病＞前週より減少し15.82となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまゝ。依然として流行発生警報開始基準値を上回っている。

＜流行性角結膜炎＞前週より増加し0.80となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

＜手足口病＞

全国レベルの第28週の定点当たりの報告数は12.64となり、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のまゝとなっています。都道府県別では石川県、福井県、福島県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は19.36で、全国レベルと比べるととても多くなっています。千葉市の第29週は前週より減少し15.82となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままで、流行発生警報開始基準値も上回ったままです。区別の発生状況は、中央区以外で流行発生警報開始基準値を上回っており、若葉区(29.5/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第29週までの累積報告数は1278件で、性別では男性が54.5%(697名)、女性が45.5%(581名)となっており、年齢階級別では1歳(42.9%:548名)、2歳(23.4%:299名)、6-11か月(10.8%:138名)の順で多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの第28週の定点当たりの報告数は0.71で、過去10年の同時期とほぼ同等レベルとなっています。都道府県別では鹿児島県、熊本県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.57で、全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市では第28週から連続して増加し0.80となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、美浜区(4.0/定点)で最多で、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第29週までの累積報告数は56件で、性別では男性が55.4%(31名)、女性が44.6%(25名)となっており、年齢階級別では30歳代及び40歳代(共に19.6%:11名)、20歳代及び50歳代(共に10.7%:6名)の順で多くなっています。

